

反射材の服 目立つネ

天白署、名学芸大生がショー

夜間の交通事故を防ぐため反射材の普及を促そうと、天白署と名古屋学芸大ファッション造形学科（日進市）は二十日、天白区役所で、反射材を使った服のファッションショーを開いた。（中尾吟）

同大の学生らが考案したジャケットやスカート、高齢者用のコートなど八十点を披露。モデル役の学生や高齢者たちが着装して、講堂に設けられたステー

ジを歩いた。

服には市販の反射材や、光を反射する特殊な糸が縫い込まれており、薄暗い講堂で観客が照らす発光ダイオード（LED）の光を受

けてまばゆく発光した。独創的なデザインだけでなく、実用品と変わらないデザインの作品もあり、新しい服が登場するたび観客から歓声が上がった。

オレンジ色で目立ちやすく、持ち運びやすい靴カバーを考案した同学科二年の小林明香李さん（三〇）は「こういう機会がないと、交通事故や反射材についてあまり考えないの、とても勉強になった」と話していた。

暗闇でも明るく光る反射材を使った服が紹介されたファッションショー＝天白区役所で

署によると、今年の十一月までの天白区内の交通事故のうち、夜間の事故は40%を占めている。寺倉利彦署長は「今回のショーを機に、多くの作品が実用化され、交通事故防止に役立ってほしい」と話した。

